



第420回 3/7(火)「大和総合体操クラブ」
代表 関 健寿(けんじ)さん



体操競技と新体操の双方をプログラムに取り入れて主に小学生を対象に毎月2~3回、市内の小学校の体育館でマット運動、トランポリン、縄跳び、跳び箱、バク転や前宙の指導をしています。男子新体操の世界で大活躍し、輝かしい競技人生を送った豊富な経験を元に体操の楽しさと素晴らしさを伝えるべく、的確なアドバイスで子どもたちへの指導を続けています。体操の指導だけでなく、礼儀として挨拶や態度などもきちんと指導しているとのこと。事故やケガのないような安全な練習場作りはもちろのこと「子ども自身に備わっている本来の身体能力を引き出し最大限に伸ばしたい」と指導者としての想いを熱く語りました。

次回の出演 422回 4/4(火)「タムタムランニングクラブ」 423回 4/18(火)「血管ケアdeメンテナンス」

FMやまと 77.7MHz 第1.3.5(火) 生放送 9:00~10:00 同日再放送 15:00~16:00

第421回 3/21(火・祝)「サークルありんこ」
会長 岩崎 沙也花さん 副会長 妻籠 那由(つまご なゆ)さん

1980年神奈川県子ども会連絡協議会主催のジュニアリーダー研修会をきっかけに設立し、昨年41年目を迎えた中学生から社会人まで20名が所属する団体です。地域のお兄さん、お姉さんとして市内の子ども会のイベント、市民まつり、二十歳の祭典等子どもたちと共に様々な体験をしながら自分達も成長する「始動者」=「始めに動く者」であるリーダーを目指しています。お2人とも小学生の頃のジュニアリーダー研修会参加をきっかけに入会し、子どもたちのお手本かつ憧れの存在になれるような意識を持ちながら活動しているとのこと。今後は5月のやまと市民まつりをはじめ、8月の夏キャンプ、9月には子ども会かるた大会が予定されています。

TSUBASA's トーク 第18回「緑のふるさと協力隊 総括研修」

① 協力隊を終え、泉の森へ花見に

観察池と桜を背景に写真を撮りました。3月中旬で岩手県一関市での農山村ボランティア「緑のふるさと協力隊」の1年の任期を終え、今は大和の実家に滞在中です。この写真はお正月ぶりに家族に会い、一緒に花見に行った時に祖母に撮ってもらったのですが、スマホの使い方に慣れていないからか、画面を強く押しすぎて指が反応しないらしく、何度も押し方を指示して撮れた一枚は、表情を準備する前のものでした。ストーリー性のある点で気に入っています。



泉の森の桜と

発表の中で、新潟県小国町に派遣されていた20代の女性で、着任前に厚木で看護師をしていたという方は、小国町の歌舞伎の一節を演じてみせました。普段カメラを向けると変顔ばかりする彼女ですが、歌舞伎の披露では男性の武士が乗り移ったような気迫のある声でセリフを読み上げました。

また、私と同じように大学を卒業して福井県坂井市で活動した男性は、借りていた家の近所に住む世話好きなおばあちゃんとの会話を再現してみせ、地域の祭りで披露したという民謡を歌ってみせました。手拍子や掛け声の合いの手で、報告会が地域の祭りの会場になっていく感じがありました。



会場の様子

③ 「全国に知り合いがいて心強い」と思えるように

今後の進路として、小国町に行った女性は海外で看護師になるのを目指し、坂井市に行った男性は定住し森林関係の職に就くと聞きました。こうして進む道を決める人もいる中、私はこの1年で進路を決められず、後ろめたさを感じることもあります。ですが、協力隊に参加したことで全国に友人を持ち、これからも連絡を取り合えることは非常に心強く感じています。まずは大和で休憩しながら生活を振り返り、今後の生き方を模索していきたいです。

本誌「あの手この手」に、TSUBASA's トークの欄をいただき、岩手県一関市での協力隊活動を12回にわたって紹介してきました。大和の方々に体験を紹介する中、より人間関係が広がったことを感じています。今後も続けたい思いがあるので、書く内容をスタッフと相談中です。(サポーター 尾畑 翼)



同期のみんなと

② 全国を巡った気分になる活動報告会

そんな家族が、3月18日に都内で行われた協力隊の活動報告会に来てくれました。報告会で私は他の全国12人の協力隊員と、個人発表のプレゼンやグループ発表の座談会、特産品や製作物を使ったブース発表をしました。これらを通じて、協力隊の受け入れ先自治体や事業の後援団体の方々、隊員の家族や次年度の隊員たちに派遣先のことを紹介し、現地での学びを発表しました。

全国の派遣先を巡った気分になる個人発表でした。



ブース発表

大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第189号 発行日: 2023年4月10日

大和市民活動センター <開館日 月~土 9:00~18:00>
<休館日 12月29日~1月3日・毎月第3月曜日>
〒242-0018 大和市深見西1-2-17

発行: 大和市民活動センター 拠点やまと

TEL: 046-260-2586 FAX: 046-205-5788
e-mail: yamato@ar.wakwak.com
http://www.kyoudounokiyoten.com/

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決!

あの手 この手

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。
第189号 2023年4月10日 大和市民活動センター[拠点やまと] 発行

4月号
2023



ペテルギウス玄関
4月4日の生け花



表紙絵は「やまと国際フレンドクラブ」(IFC)主催
2022「第15回やまと国際アートフェスタ」
入賞作品を毎月掲載しています。

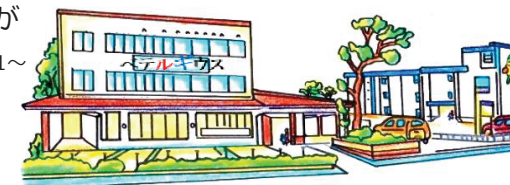
今回のテーマ ~平和・いま私にできること~
さがみ農業協同組合大和地区運営員会賞
瀧川ちえみさん 草柳小学校4年生(ブラジル)

タイトル:「海にしずむ太陽」
メッセージ:「テレビで見たかわいいちょうちょをかきました。
夕方にして、きれいなおひさまをかきました。」

「やまと国際アートフェスタ」は
「やまと国際フレンドクラブ」(IFC) *の主催で毎年催されています。
*草の根の国際交流、外国人支援を行いながら
「ともにくらすまち 大和」を考えるボランティアグループです。

2023年度 大和市民活動センター管理運営事業

「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に謳われた「新しい公共」を具現化する目的で 皆さんと一緒に「市民活動の拡大」「社会資源の活用」を目指して活動しております。ここ大和市民活動センターもペテルギウス(旧市立図書館)に移ってから5年が経ちました。特にこの協働5期(2021~2023年度)は新型コロナウイルスによる影響で来館者の方も著しく減り登録団体の活動も縮小化しました。



大和市民活動センター「拠点やまと」 望月則男

ウイズコロナ、ポストコロナの時代

市民活動、NPO活動、社会貢献活動はどうあるべきか

先駆の人を訪ねて 第11回

異文化コミュニケーターとしての松本さんに

求められたのは仲介役 「寄り添うだけではだめ、学び合いが大切」①



アルベルト松本 (Juan Alberto MATSUMOTO) さん

アルゼンチン日系二世 (1962年生まれ、1990年から日本在住)



このシリーズもついに11回目。ようやくポストコロナを迎える!?というときがやってきました。

今回は、全国のスペイン語圏出身の人々(特にペルー人)への支援、それにとどまらず、彼らが日本社会で生きていく上では、「日本語を学びなさい」、「国民年金には必ず加入しなさい、脱退しちゃダメ」と嫌われることも厭わず、叱咤激励し続けてきたアルベルト松本さんを、JICA 横浜海外移住資料館にお訪ねしてお話を伺いました。

戦後、アルゼンチンに移住されたご両親のもと、アルゼンチンで生を受けられた松本さん。その個人ストーリーでは、アルゼンチンでのご苦労、いかにして日本で学ぶこととされたか。その後の幅広く、奥の深い「異文化コミュニケーター」としてのお仕事、現場でのペルー人支援のエピソードなどのご紹介と、日本の多文化共生の課題と将来についてお話をいただきました。その内容を今号と次号でご紹介させていただきます。

聞き手は、望月則男、船越英一 (インタビュー: 2023年2月14日)

アルベルト松本さん 主な来歴: 国費留学生として来日(筑波大学に在学)。横浜国立大学大学院で法律の修士号取得。渉外法務専門の翻訳会社設立(1997)。NHK-TVE 放送通訳。Discover Nikkei-JANM コラムニスト・東京 & 横浜地裁法廷通訳。JICA 中南米日系研修員及び中南米日系社会 JICA 海外協力隊派遣前研修講師。2017年10月、JICA 理事長の「JICA 国際協力感謝賞」を受賞。2022年8月、外務大臣表彰を受賞。横浜市在住。大和市では「外国人市民サミット」のファシリテーターも務めた。横浜市在住。日本滞在歴33年。

— 松本さんには、大和市の多文化共生、外国人(特にペルー人)支援で、長くお世話になっていますが、アルゼンチンからの日系移民ということで、ご苦労されていると思えます。その辺りから聞かせていただけますか

父は1957年、母は1961年にアルゼンチンに渡った戦後移民です。当時普通だった写真を見てのお見合ではなく、父の妹と母は、同じ町の同級生だったので、それで結婚することになったようです

当時、父は戦後間もない日本より、アルゼンチンの方が見込みはあると思ったようです。当時のアルゼンチンの労働者の賃金は日本の4、5倍だったと聞いていますから。その後5年くらいの中に、日本はオリンピックもあって高度経済成長期に入っていくわけです。だけど、親父の認識では、日本では仕事はないだろうなって思って行ったのでしょね。

神奈川県に農林水産省の農業試験場があったらしいです。父はそこで研修を受けて、猛勉強して外務省の農業研修生としてアルゼンチンに渡ったのです。

父の専門は農業と言っても野菜を勉強して行ったのですが、アルゼンチンは、ブラジルやペルーのようにオープンに日本人移住者を受け入れた国ではないのです。

受け入れるけど、資格がなくてだめとか、招待状があるのかとか、どこの農園で働くのかとすべてが整っていないとビザが下りない時代でした。

ですから、現在、アルゼンチンにいる日系人は3世、4世も含めて5万人がいいところでしょうね。

— お父様がアルゼンチンを選ばれた理由をもう少し詳しくお聞かせください

父は、神奈川県農業省農業技術研修所にいたときに、たまたま日本に来ていた、アルゼンチンの花づくりの名門中の名門、賀集(がしゅう)家の奥さま(静子さん)が日本に見えた時に聞いたらしいです。「花づくりは儲かるって」

賀集家は、ぼくが生まれ育った、エスコバルという町に家と農園を持っていました。アルゼンチン人は、彼女にも、お母さんにも、奥さんにも花をプレゼントする国と聞いて、花づくりは儲かるって、父は思ったのですね。

よくまあそれだけのデータで、アルゼンチンを選んだと思います。

— 松本さんは、アルゼンチンでお生まれになったのですよね

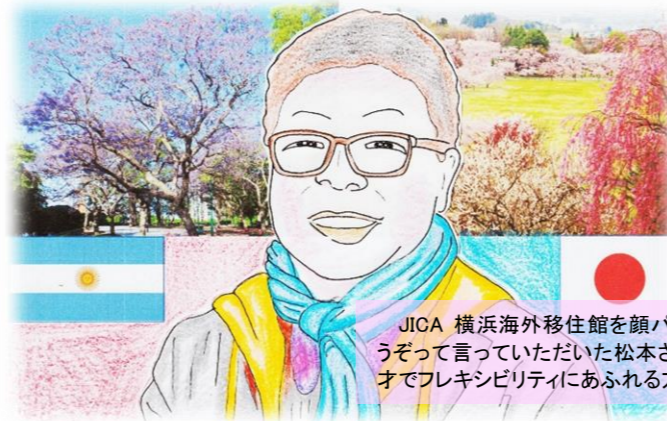
両親はブエノスアイレスの郊外に住んでいたのですが、母が移住した翌年、1962年に長男として生まれました

母は、言葉(スペイン語)ができないだけじゃなくて、花嫁修業も勝手が違う異国で、ずいぶん苦労したとは聞いています。

でも、戦前に移住された方の方は、この海外移住資料館の展示物を見られればわかるように、もっと大変でしたね。

うちの父なんかは、そういう諸先輩がいて、日本語もできる雇用主もいるので。仕事は大変だったでしょうけど、受け入れ態勢ができていましたからね。

パラグアイとか、もちろんブラジル、ボリビアもそうだし、カリブ海のドミニカ共和国も、ほとんど開拓という、何もないところからスタートする、日本人の集団が家族で入っていくというのがありますが、アルゼンチンの場合は、そうではないんですよ。



JICA 横浜海外移住館を顔パスでどうぞって言っていただいた松本さん。多才でフレキシビリティにあふれる方

資格があるとか選別された人、ある程度の教育水準がある人、招待状がある人が入国できたんです。

と言っても南米ですから、結局数年経つと、たとえばパラグアイに移住した人たちは、ときには夜逃げ同然で、チリからもボリビアからも越境して、アルゼンチンのブエノスアイレス郊外に集まったというのは事実なんですよ。

— ブエノスアイレスが一番住みやすいのですか

住みやすいと言えば住みやすい。日本人がいると安全で、わかりやすく言えば お金儲けできるというか。だって生活がかかっているわけですから、商売にしても 農業にしてもね。

だから、かなりの人がブエノスアイレス郊外に集まってきたわけです

今も街としては大きいですが、当時はやっぱり憧れの街みだだったですし、ブラジルからでさえも南下して、中には何千キロも歩いてブエノスアイレスまでたどり着いてんです。

「おかしいでしょ」とぼくなんか思うわけです。飛行機ももちろんない。あっても高い。列車はない。バスだって、何回も乗り換えなきゃいけない。それなのに歩いてきた人もいるわけです。相当、切羽詰まっていたんでしょうね。

それを考えると、うちの両親のように直接ブエノスアイレス郊外に集まった日本人たちは、比較的恵まれた方だと思います。自分たちがある程度、生活基盤や仕事成り立つと、ほかの日本人を受け入れて、助けるわけですよ。日本人会とか県人会とかで、同胞を助けるというのは当初からあったみたいですね。

— 松本さんは、話す言葉は日本語だったのですか

実はもう、生まれた時から日本語です

ぼくは本来であれば、母語はスペイン語じゃないですか。生まれたのはアルゼンチンだから。でも、ぼくが生まれ育ったエスコバルという街は日本語学校もあって、小学校2年生ぐらいまでは生活すべてが日本語でしたね。

だから困っちゃったというか、知らないうちに困っていたんですね。小学校3年生に上がれないって学校の先生に言われてました。「いい子なんだけどあんたは落第」って。生活が完全に日本語だったわけです。通っていたアルゼンチン学校は、30%が日系人だったんですから。

(次号に続く)

編集・文責・写真:船越英一、イラスト:望月則男

3月の展示コーナー

市民交流スペース内の「展示コーナー」では、個人・団体の活動の紹介や作品展を行うことができます。申込み方法については、大和市民活動センターまでお問い合わせください。

3/1~15 切り絵の友



3/15~31 協働事業パネル展

共育ボードより ★手の器用な人たちでうらやましい。会員同志で親睦を図りながら楽しい会話をしているのしょうね★すばらしい作品の数々。目をうばわれますね!★くりがおいしそうでもとてもすてきです。立体的になっているのは、どうやったのが気になります★まー細かい!素晴らしい傑作です!★すごくきれいで色んな角度からみるのが楽しかったです!!★神輿Cが好みます。キラキラゴージャス!がくぶちを手作りで、すごいなおもいました★気が遠くなる程こまかくスゴイです★みごとな切り絵の数々。細かさがより立体感をだしていますね。「栗」もすばらしいです!!★私も切り絵がすきです。とても素晴らしいです★すばらしい!!習いたいです!!★ほんとうにスバラシイ。またいつか体験したいです★作品がすべてすごいです。見ごたえのあるものばかりで、楽しめました。ありがとうございます。

